

体協だより

体協田中野田代表理事 和気 茂

はじめに、町内の皆様には日頃から田中野田体協について、ご理解とご協力をいただき、感謝とお礼を申し上げます。本年度の活動も御南学区卓球大会を最後に全ての行事を消化しました。この中で、主な行事について振り返ってみたいと思います。

○学区民体育祭(9月27日) 残念ながら五位に終わりました。次年度は選手層を広め、是非とも上位入賞を目指します。

○学区民バレーボール大会(6月21日) 準優勝。若いお母さん中心のチームで毎年力をつけてきています。

○学区民卓球大会(10月25日) 優勝しました-前年度は準優勝-。とくに、大学生の光延慎一郎君、女性の高橋圭子さん、また和気敏弘君には大活躍をしていただきました。この頑張りを田中野田チームの伝統にしたいと思っています。

以上ですが、体協は今後も田中野田子供育成会など、各種団体と連携を保ちながら、町内会の補助組織として頑張っていく所存です。

なお、この機会に体協役員を紹介させていただきます。今後ともよろしく願います。

- 横野 良典、和気 健、香山 寛、卯善 剛、木村 強、
- 大森 賀典基、木村 俊彦、白石 誠、和気 芳夫、松本 彰二、
- 上中田 稔高、秋森 竜夫、植田 祐治、和気 茂(代表)

郷土の古い写真をお持ちの方は！

町内会長の年頭の挨拶にもありますように、区画整理で町内外の大きく変わった様子を記録するため「写真で見る郷土の変遷」-仮称-と題した、刷子の刊行を企画しました。来年度中の刊行を予定しておりますので、区画整理以前の町内外の風景や風物などの写真をお持ちの方は、編集委員の中尾佐之吉さん・和気暉明さんか、町内会長に連絡していただき、是非とも皆さんのご協力をお願いします。なお、これは御南学区コミュニティ協議会の事業として行っているものです。

わが郷土を語る(37)

中尾 佐之吉

いずこも同じ、明治生まれの農家主婦あわれ

(1)【東京府下の農家主婦で、東京を一生見ずに終わった者もあったという】徳富健次郎の『みみずのたわごと』に、つぎのような記事がある。

「此辺の女は大抵留守ばかりしていて、唯三里の東京を一生見ずに死ぬ者もある。」

上記の記事の「このあたり」とは、明治の終わり頃、健次郎の住んでいた東京郊外北多摩郡千歳村字柏谷である。(現在は、東京都世田谷区になっていると思う。)

ずっと昔、自分の生まれた村の中で一生を終える人が多かったとは、もの本にも書かれている。明治も終わり頃だったら、交通機関もかなり発達している時期だろうに、なお、このような状態であったことが知られる。

(参考・この時期、岡山では、山陽線はもちろん中国鉄道津山線も開通していたし、宇野線も明治43年に完成している。)

(2)【この地方の農家主婦として、その事情は、千歳村主婦と大差なかった】明治31年生まれ私の母親も農家のわが家に嫁いできて私をはじめ4人の持ち主になったから、家事のこともあって自由に散歩できるものではない。とくに農繁期ともなれば当然であったろう。

私が小学校低学年のとき、後樂園へ遠足にいった。その時一緒についてくれた以外は、自分の里(現在・岡山市川入)へたまに行くのがせいぜい。子供が大きくなっても、行動範囲は限られていた。とくに、物見遊山などで旅行したことを私は知らない。この点、私の母だけでなく近所の農家の主婦たちも大差はなかったのではなかろうか。

(3)【主人は、主婦より行動範囲は広がったが、それでも自由ではなかった】この地方の農家では、当時大抵牛を飼っていた。この牛は農耕用である。田植えを終えてから秋の取り入れまでの間、つまり、牛耕の必要のない時期は牛を手放すが、その他の時期、すなわち1年の3分の2くらいの期間は牛と同居である。しかも、この牛の飼育には男手が絶対必要であるから、その間、主人は一日たりとも家を空けることができない。さらに、この地方で「い草」が栽培されていて、7・8月中はこの取り入れなどで休む暇は得られない。だから、たまに旅行に出られるのは、1年の内9月と10月の2ヶ月くらいのものである。それでも私の父親は、この地区の仲間の人と、東京・大阪・お伊勢さま、西は、日本三景の宮島くらいは行っているらしい。また慰勞に湯郷・城崎・別府の温泉を訪れている。だから、母親よりはまじかったと言ってもよからう。

(4)【いまは、海外旅行もめずらしくない】現在、この地方は土地区画整理により、都市計画道路が縦横に張りめぐらされ、都市化が急速に進んでいる。このため、広大であった田園地帯の面積はすっかりなくなり、残された農地が街並みの間にわずかにみられるといった有様だ。また、専業農家はほとんどなく、片手間の農作業も機械化された短期間に作付けも取り入れも終わってしまう。したがって、勤めをもつ人

も自分の持てる余暇時間を有効に使えるし、主婦も子育ての期間はともかく、ゆとり時間をもてる時代になった。そして、交通機関は発達するし、道路網は整備される。さらには旅行業者の手厚いサービスで、国内はもとより外国へも気軽に旅行できるようになった。男も女も、若い者も年寄りもである。

私はつねづね思う。亡くなった親たちへ大きく変貌したこの地方の姿を一度見てもらいたいのだと。そして、上述のような事情も聞いてもらいたいの。はかない思いだが……。

\* \* \* \* \*

下の写真は、町内3組の和気邦朗・見代子さんと夫が最近オーストラリアへ旅行され、シドニーにて写されたもの。海外旅行がこんなに身近なものかと実感されたので掲載させていただきました。



グラウンドゴルフ練習日のお知らせ

田中野田では、グラウンドゴルフの練習日を次のように決めました。町内の方ならどなたでも参加でき、用具は当方で準備します。もちろん初心者大歓迎です。

日時：毎月第1水曜日、午後1時~2時30分

場所：田中野田2号公園

編集後記：最近、町内のあちこちの庭先で、丹精こめたきれいな花を多く見受けます。本紙ではここ3年で2回、花の特集号としました。町内の花づくりには、リサイクル推進委員から毎年多大な応援をいただいております。過日公民館での花育での講話では、田中野田からの出席者が過半数だったそうです。このようないろいろな機会を利用して花づくりを心がけ、本年も町を花で飾りましょう。